

令和元年度
埋蔵文化財調査士補
資格試験

【Ⅱ】 小論文問題・答案用紙

【Ⅱ】 次の設問から2問を選び答案用紙に選択した問題番号を記入の上、それぞれ400字以内で述べなさい。（横書きで記述すること。）

- ① 調査担当者（法第92条）として、想定外に遺構・遺物が確認されたような場合どのような対策が必要か記述しなさい。（自らの考えも含めて良い。）
- ② 古代トイレについて知るところを記述しなさい。
- ③ デジタル化された発掘調査の情報処理の利点と欠点について記述しなさい。

受験番号	氏名	Ⅱ（選択番号）	

試験日：令和元年8月31日（土）

会場：東京中野「東京生活協同組合連合会」

公益社団法人 日本文化財保護協会

小論文

- ① 調査担当者（法第 92 条）として、予定外に遺構・遺物が確認されたような場合どのような対策が必要か記述しなさい。自らの考えも含めても良い。

以下が触れられていること。

- ① 行程や予算に影響すると思われた場合、その原因や変更数量などを分析し、
- ② 社内・外に報告をしてその対策を講ずる。
- ③ 必要であれば三者協議を行い、調査仕様から行程、予算などを協議する。
- ④ その結果、正当性があれば変更契約などにもって行く。

ただし、そこまでいかない場合は当然ある。その時、担当者、組織の考えが必要になる。

- ② 古代トイレについて知るところを記述しなさい。

[解答例]

発掘により便所遺構が見つかったのはそれほど古いことではない。1992 年 1 である。それ前にも福岡県鴻臚館遺跡から見つかった 3 基の性格不明の土坑が注意されていた。この遺跡は大宰府にあった迎賓館のような性格の建物。発掘された土坑は深さ 4m の深い掘り込みで、中には漆黒土が詰まっていた。注目されたのはチュウ木と呼ぶ尻ふき用具と大量にみつかったウリの種子と魚骨、そしてハエのさなぎであった。これらからヒトが排泄をおこなった跡であると推定された。年代は八世紀前半である。平成 4 年（1992）のちに古代トイレ研究の第一人者となる黒崎直は、奈良県藤原京跡右京七条一坊で、7 世紀末の官衙地域の調査をおこなった。ここで発見された長さ 1.6m の小さな穴から、同じように籌木・ウリの種子・魚骨・ハエの蛹が検出された。土坑内土壌を分析した金原正明は、中から寄生虫卵を抽出し、人にのみ寄生する種類であると認定。類例は平城京・長岡京・平安京でも発掘され検証されていった。平城京の場合は築地塀の外にある側溝から水を引き排せつ物を外に流す構造の、いわゆる水洗便所もみつかった。水洗方式が古代からあることが示された。古代秋田城は 8.9 世紀の東北経営の拠点。この東門に接した地区にあった便所は、高台にあり斜面に沿って木(もく)樋(ひ)を備える堂々たる水洗式便所である。さらに東北の平泉柳之御所では、昭和 62 年（1987）頃 2000 本以上の籌木を出土した 3 基の土坑が知られていた。まだ便所とは考えずに、尻ふき具のみに注目していたが、のち便所とされた例もある。なかなか発見されなかった便所遺構は、意外にも平凡な場所と簡単な構造のものであった。この証拠が必要であり、自然科学的な方法は大きな決め手となった。便所遺構が発見される場所は、役所や集会施設等、人が集まる都市である。自然環境の中にある、農村集落では、近世になるまでは出現しなかった。便所は、のちの肥料として用いるための重要な施設となっていく。

- ③ デジタル化された発掘調査の情報処理の利点と欠点について記述しなさい。

回答例：以下のいずれかに言及していること

- ① 測量・計測機器等から直接コンピュータに情報を取り込み、編集加工等ができるため工数の削減や、入力・転記の際のエラーを回避できる

- ②発掘調査～整理作業、報告書作成まで一貫した工程で扱うことができるため、作業工程の効率化に適している。
- ③手測り等デジタル化されていない記録も、整理作業段階でデジタル化することで作業工程に組み込むことは意義がある
- ④電源・使用条件、データの互換性や保管などによる制約が生じる場合があるので留意する必要がある